

令和3年度第1回学校協議会要点録

令和3年12月22日(水) 19:00~20:40

於：味生小学校 会議室

記録 清家 伸次(事務局:本校教頭)

1. 校長あいさつ

- ・学校協議会の意義について
- ・学校の様子

コロナ禍で厳しい現状だが、負けずに感染対策をきっちりし、教育活動を行いたい。是非、皆様からお力添えいただき、貴重なご意見を生かして学校運営に励みたい。

- ・委員委嘱
- ・学校協議会委員(今年度は7名)

会長:今西恭夫(元補導員)

委員:伊波豊(味生校区自主防災会本部長)

竹内靖子(民生児童委員)

濱谷武彦(ダイキン工業株式会社)

穂積範仁(味生校区連合自治会会長)

前馬晋策(元小学校校長)

吉本ますみ(青少年指導員)(委員名は50音順で記載)

会長あいさつ

生徒指導の面で、摂津市立小中学校とこれまで長い付き合いがある。摂津市でも、3歳の子どもが亡くなるといういたたまれないことが起き、非常に辛い。コロナ禍において、学校は一生懸命だと思うが、できる限り多くの子どもの話を聞いてあげて欲しい。

2. 学校経営の進捗状況について

- ・「学校経営の重点(学校が重点的に取り組んでいるものをまとめたもの)」に沿って、進める。
- ・変化が激しく、生きることが大変な状況の中で、子どもたちが強く生きていけるように考えたい。
- ・学力向上は、国語・算数を中心に進め、他教科へも広げたい。理数離れが言われるが、本校でも課題である。新たに濱谷委員にお越しいただいたのも、理科の分野に少しでも興味を持てるような取組みへのご意見をいただければと考えた。
- ・「私も味生小学校出身」という声をよく聞く。味生小学校は愛されていると感じる。

3. 学校行事から

ダイキン工業見学(3年生)

委員:例年、3年生は工場見学のみだったが、今年は秋の「TICの森」(ダイキン工業淀川製作所内にある人工森)の様子を見ていただくことが出来た。たくさんの児童が楽しく走り回っていたので、行ってよかったと思う。イタチやタヌキの姿を見かけることもある。山まで行かなくても自然の野生の動物を観ることが出来る。ホタルも数が増え、自生している。子どもはもちろん大人でも興味を持ってもらえるのではないかな。先生方に見学に来ていただき、是非、活用して欲しい。

委員:ホタルを育てる中で、子どもの感受性も成長する。学校での学習も大切だが、そのような感受性の育みは重

要。それを大きく伸ばせるように、ダイキン工業さんはじめ学校外とのつながりや協力は大切。

委員：今年度の味生小学校は何を一番めざしているのか。

校長：味生小学校でめざしたいことは、『児童に笑顔で過ごして欲しい』ということ。

委員：それには、興味・関心を示すことが出来る児童、自ら意欲を伸ばしていく児童を育てることが大切ではないか。

委員：世の中には、もっともっと楽しいことがたくさんある。iPadでは本物にふれることはできない。

委員：もっと、いろいろな物を見つけることが出来るのではないか。一つの物を見つけるのに少し時間がかかると思うが、新しい発想も必要。

ただし、コロナの前に戻れない。これからの教育は多くの意見に耳を傾けることが大切。みんなの知恵を生かす工夫が欲しい。

委員：ダイキン工業さんとの連携は興味深い。そこで外国の人も多く働いており、世界とのつながりを意識させることにもつながる。将来の生き方やビジョンにも生かすことが出来るとも考える。いろいろな学びの中で、子どもたちには、世界で活躍できる大人に成長して欲しい。

運動会

会長：「運動会の練習について、音量が大き過ぎる。」という地域の方からの相談を受けた。「音に負けないくらい児童が頑張っている。少々の音量については理解して欲しい。」と説明するとわかってくれた。子どもも学校も頑張っていることは外から見てもよくわかる。

委員：運動会では6年生が江州音頭も踊っていた。その後、江州音頭発祥の滋賀県の小学校とのオンライン交流会を行った。

校長：音量の件、申し訳ございません。ご迷惑をおかけしないように注意したい。

江州音頭の取組みについては、地域の中での自分の生き方を考える教育につなぎ、学習のまとめとして「わたしのつながり展」という児童が作成したレポートの展示会を味生公民館でしていただいた。見学した方からは、高い評価をいただいた。

委員：そんな取組みについては、もっと発信して欲しい。

校長：発信の方法についてはさらに考えたい。

今年の運動会も、入場制限をする必要があった。児童だけで運動会を行うバージョンと保護者が参観するバージョンとで2日間、運動会を行った。児童は、満足感も味わいつつ、高学年へのあこがれも感じる事が出来た。

学校への意見

委員：味生校区の特徴は、様々な会合で、いつも同じ顔を見ることが出来るという、人と人が近い地域。その中で、もっと子どもをどう育てるかを話し合うことが出来ればよい。地域の人と人との距離の近さを生かした連携がもっとできるはず。

委員：10年前の学校は1学年70名ほど(現在は50名弱)。自治会とこども会が力を合わせないといけませんが、その加入率も落ちてきている。是非、校長のリーダーシップを発揮して、新たなつながりも模索して欲しい。

委員：公民館や学校から地域への発信があれば、もっと学校の頑張りを地域の人にわかってもらえると思う。残念に思う。

委員：学校の敷居を低くして欲しい。「どうせ頼んでも無理と言われる」と思われてしまったらいけない。子どものために何かしたいという気持ちの人はたくさんいるのではないか。

委員：発信の方法を考える必要があるのではないか。学校ホームページもその一つ。もっと活用し、子どもの頑張る姿を知らせて欲しい。

委員：コロナ以降、久しぶりに何かできるとうれしい。学校の登下校の様子を見てもうれしく感じる。何年前、PTA会長をした時は、子どもたちに全然元気がなかったように感じ、帰る時だけが元気だった。その頃と比べると子どもたちの元気な姿を見ることが出来るので安心している。

校長：学校で活動できることが増え、確かに児童の意欲は高い状態。しかし、この学習意欲の高い状態は一時的なものかもしれない。だからこそ、今後、学校はしっかりと教育の質を高め、この高い学習意欲を維持できるように授業づくりや学級づくりに努めていかなければいけないと感じている。

4. 学校教育自己診断について

校長：保護者へのアンケートの内容を協議したい。回答は5段階で行う。

会長：どれくらい保護者へ、きちんと児童が渡しているのか。回収率はどれくらいなのか。

校長：昨年で90%弱。今年度は、QRコードを印刷して渡す予定。スマートフォンなどから回答できるようにしている。

委員：学校教育の自己診断なので、家庭教育の自己診断になってしまう内容ではいけないのでは。

委員：同じ内容の質問を、保護者、児童、そして教職員にもすると、見方が多角的になり、より分析がしやすいのでは。保護者・児童と学校の認識がずれてしまっている場合に学校が気づくことが出来る。

委員：質問が多過ぎる。もう少しポイントを絞って、少なくするべきではないか。

これだけのことをやって何が変わるのかがわかりにくい。

委員：4年前は、全国学力・学習状況調査の結果も、全国や大阪府の平均よりもかなり低かった。様々なアンケートや様々な取組みが少しずつ結果に結びついてきた。だから、アンケートも必要。しかし、もっとわかりやすく、表現の仕方を考える必要がある。

委員：評価するための基準が示されておらず判断に苦しむのではないか。例えば、「子どもたちを平等に扱っているのか」などについては回答が難しい。

委員：学校は今、アンケートなど大変なのだと思う。児童も保護者も真面目に答えるのだろうか。実施する意味があるのかなと思うところもある。様々な目線で考えたいし、もちろん協力もしていきたい。

会長：味生小学校の「特色」を出しつつ、日々取り組んで欲しい。「こんな子どもに育てて欲しい」という気持ちをしっかり持つことが必要。それが保護者にも地域にもわかれば、学校を大人がどのように応援できるかもわかってくるのではないか。

5. 今後の予定

第2回1月19日(水)(アンケート結果について)

第3回2月16日(水)(関係者評価について)

第4回3月9日(水)(来年度学校経営方針について)

6. その他

2月7日(月)研究発表会

2月13日(日)自主防災訓練実施体育館で座学の予定

2月14日(月)フリー参観